

Minami Kyushu Junior College Syllabus

科目名称	異文化コミュニケーション論				英語コミュニケーション ()	留 学 ()	ビジネス・キャリア (○)	ホテル・観光 (○)	オフィス情報 ()
英文科目名称	Intercultural Communication				医療事務・医療秘書 (○)	スポーツ健康 ()	大学編入 (○)	グローバル ()	
科目コード	531760	授業形態	講義	単位数	2				
教員氏名	秋谷 公博		年次配当	2年次	前期				
授業概要及び 授業方法	<p>近年、グローバル化の進展により海外が非常に身近になり、海外に旅行に行く機会や外国の方と接する機会が増え、異文化に接する機会が非常に多くなっている。また、別の視点で見ると、異文化とは、ただ日本と海外との関係のみでなく、自己と他者、自分の生まれ育った地域とその他の地域等の様に国内との関係においても存在している。</p> <p>上記を踏まえ本授業では、映像資料やスライドなどを用いて授業を行うことで、異文化コミュニケーションの基礎概念や、異文化理解に関する基礎的な知識が身につけることを目的としている。また、異文化コミュニケーションに関する知識を身につけるためには、多角的な視点による思考力や発想力や誰とでも良好なラポールが構築できるようなコミュニケーション能力を養うことも必要である。その為、授業を通して、それらの能力も養っていく。</p>								
関連する科目				学習成果との関係	① ④				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション: 授業の進め方、目的、到達目標、評価方法等の説明 2. スライドで見る世界の諸相 3. 異文化コミュニケーションの基礎概念①文化とは 4. 異文化コミュニケーションの基礎概念②コミュニケーションとは 5. 自己とアイデンティティ 6. カルチャーショックと適応のプロセス 7. 違いに気づく: 行動、視点などによる文化の違い 8. 異文化の認識: 固定概念、ステレオタイプ、カテゴリー化 9. 差別と異文化理解 10. 世界の価値観と異文化理解 11. 自己とアイデンティティ 12. 非言語的コミュニケーション 13. 対人コミュニケーション 14. アサーティブ・コミュニケーション 15. まとめ 								
授業時間外の学習	<p>予習は必ずしも必要ではないが、毎回授業内容を理解していないと次の授業の内容が理解できなくなってしまう。その為、復習は必ず30分程度行い、次の授業の時にきちんと前回の内容が理解できているようにしておくこと。</p>								
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ①異文化コミュニケーションの基礎概念や、異文化理解に関する基礎的な知識を身につける。 ②異文化コミュニケーションに必要な思考力、発想力及びコミュニケーション能力を養う。 								
課題に対する フィードバック	課題などのフィードバックに関しては、授業毎に適宜行う。			評価方法	①ミニレポート(30%)、②授業態度及び授業への貢献度(10%)期末テスト(60%)で算出する。				
テキスト	本講義は、テキストを使用せず、適宜関係資料の配布、スライド、ビデオなどを使用しながら講義を進めていく。								
参考書	適宜授業で紹介する。								
備考	特になし。								